

## 東北、欲張り山行

昨年春山は飯豊連峰を縦走した。単独行だったが、それゆえか印象に残る山行だった。今年はその続きで朝日連峰と決めていた。昨年アクシデントで同行できなかった I と早々に計画を立てたが、昨年のように高速バスで行き、縦走するには交通の便が悪い。加えて高速道路の割引で渋滞が予想された。それならいっそ飛行機で飛んで、レンタカーで入り周遊するコースを考えた。山形行きも仙台行きも飛行機は取れたが、レンタカーが予約できない。岩手花巻空港ならレンタカーも取れた。岩手の地図を広げて再検討した。以前、夏に行った焼石岳は一面のお花畑だった。そしてウスユキソウで有名な早池峰の春はどうだろう。おまけは岩手山と欲張った。岩手山は、山スキーで入ったが、天気が悪くて引き返している。

## ぜいたくな温泉三昧の旅

5 / 1 午後、伊丹集合からツアーが始まった。温泉一泊付きの飛行機代が3万円、レンタカーが5日間3万5千円、一人あたり5万円の経費になる。初日の泊まりは花巻の郊外の鉛温泉。聞いたこともないが、湯治場らしい。われわれの部屋も湯治宿で、一般の旅館とは別棟だった。定食のような晩飯だったが、買い込んだ酒で乾杯。立って入る深い風呂が有名だとか、温まって寝る。

## 二人だけの山旅の始まり

5 / 2 しっかり朝飯を食って焼石岳の登山口、夏油温泉に行く。この温泉もなかなかの秘湯らしいが、下山してからの楽しみとする。金名水の小屋まで5、6時間で行くだろう。天気もいいし、あわてることもないが、誰も入山していないようだ。あらかじめ聞いていた橋は板がはがされ鉄橋状態でちょっとしたスリルを味わう。そこから尾根に取り付き、高度を稼ぐ。が、雪壁を避けたら藪に突入してしまった。残雪を拾



ったり、藪を掻き分けながら幾つかのピークを踏み、やっと経塚山に着いた。予想よりずいぶん時間がかかった。天竺山をトラバースすると金名水の小屋が見えた。二人だけのはずが、地元、奥州山岳会のメンバーが中沼から登って来て、早々と酒盛りをしていた。我々がよそ者とはいえ、夜中まで騒がれて参った。



5 / 3 今日も天気はまずまず、前方にぼこぼこと穏やかなピークが見えるがどれが焼石本峰かわからなかった。夏に草原や沼地だった姥石平は大雪原だろうと思ったが、以外と雪が少ない。頂上を踏んで、記念写真を撮ったらさっさと雪壁を駆け下りた。これから夏油温泉まで長い。何時ものように往復は避け、金名水の小屋の手前を牛形山に向かう。うまく雪を拾わないと藪に入るが、痩せ尾根で雪が崩落する危険もある。いくつもピーク

を越え、牛形山に着いた。後は下るだけと思ったが、いやなトラバースが待っていた。ピッケルを取り出し、滑落に備える。行けども行けども夏油温泉は近づかない。やっと降りた温泉は観光客で賑わっていた。明日の天気は下り坂という。ゆっくり温泉で泊まっても思ったが、宿は一杯だった。露天風呂に入り、次の目的地の早池峰の登山口、岳集落に車を走らせた。雨を避けるため東屋にテントを張る。



## お遍路のような岩手山のお鉢巡り

5 / 4 どんよりとして早池峰山は隠れている。行くかどうか迷っていると、降ってきた。さあどうする。濡れた体で山中の宿泊はつらいなあ。駄目もとで、おまけの岩手山を目指して車を走らせた。山の緑に桜が映える。それにどの家の周りも花がきれいに咲いていて、生活する人の心根が偲ばれる。岩手山の頂上も雲に隠れているが時折、顔を見せる。焼走から登る予定だったが、高速から近い馬返に向かう。車は4、5台あった。登山道脇にイチゲの花が咲き乱れている。9時出発だが、6時間で往復できるだろう。富士山のようにガラ場が続いた後、雪渓に入る。ドンドンと麓の陸上自衛隊の演習音がうるさい。谷筋にかすかにスキーの後が残っている。帰りは靴スキーで下ろう。八合目避難小屋は100





人から収容できそう。小屋番がいて一泊1500円だった。最後の登りにかかる。お鉢に着くと最高峰の薬師岳が釜をはさんで見えた。振り返ると鬼ヶ城が荒々しくそそり立っている。お鉢には雪はなく、釜からは噴煙が上がる。お鉢の回りに等間隔で石仏の観音さんが立っている。100kgはゆうに超えるが、どれも人の手で担ぎ上げられたのだろう。1周1時間の有難いお鉢巡りだった。小屋まで戻り、靴スキーで遊びながら下った。車窓から満開

の桜を前景に岩手山がすっきりと姿を見せてくれた。早池峰には戻らず、ここから近い、乳頭山域に向かった。滝ノ上温泉も湯治場として有名な秘湯らしい。テント場を確認して温泉に入る。

## 岩手から秋田へ山越え

5 / 5 今日長い1日になりそう。毎回下界に下りるから尾根に出るまでに時間がかかる。ここも我々だけだった。ブナ林を抜け、やがて夏道も雪に隠れ、時々目印を見つけては安堵する。この山域も雪原が続き、青空とのコントラストが美しい。乳頭山をトラバースして、笹森山に向かう。お椀型の山並みが続くが、秋田駒はまだ確認できない。湯森山を越え横岳まで、夏道が出てきたり雪で隠れたり飽きるほど歩いてようや



く秋田駒が確認できた。頂上から滑るスキーヤーが見えた。阿弥陀池小屋の前にも地元のスキーヤーが昼寝をしていた。我々が滝ノ上温泉から来たというと驚いていた。明日、そこまで引き返すというともっと驚いた。小屋に荷物を降ろして頂上に向かう。荒々しい男岳と女体のような女岳が印象的だ。ゴールデンウ

イクも後半で小屋は我々二人だけだった。新しい靴だが春の雪が染み込んで靴下まで濡れてしまった。日向ぼっこをしながら酒を飲んだ。

5 / 6 このところずっと暖かい。朝になっても雪は緩んだままだった。さて、又滝ノ上温泉まで引き返さなければならぬ。ここも往復を嫌い、笹森山から平ヶ倉山を経て下山することにした。最後のぶな林をぬけると平ヶ倉沼があり、白い花が群生して見えた。あたりに道もないが、はるか向こうまで白い花が続いているのは水芭蕉だった。苦労した二人へのうれしい褒美だった。



明日は飛行機で帰る。秘湯もいいが今日はしっかりと体を洗って休みたいと、大きな浴場のあるホテルの風呂に入る。食料と酒を買い込み、岩手山の麓の焼走りで最後のテントを張った。

今回も、充実した静かな山旅ができた。Iに感謝！

